

G-2: 知的財産

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 15:30 - 17:00 会場C

国プロ終了後の持続的・自律的なイノベーション・プラットフォーム構築のための知財戦略

JST,NEDO,AMED等の委託事業など、国家プロジェクト、いわゆる国プロには期間が定まっている一方で、近年、ファンディングエージェンシー側から事業終了後の自立が求められています。しかしながら、それが実現できている事例はそれほど多くはありません。そのため、大学の規模や支援の立場が異なる登壇者による事例紹介及び問題意識の共有を通じて、持続的・自律的なイノベーション・プラットフォーム構築のためにどのような戦略があるのか、主に知財戦略にフォーカスして議論する場にしたいと考えています。

ここで言う国プロは、特に、社会実装も視野に入れた研究体制が大規模であるものを指します。このようなプロジェクトはその期間が比較的長期なものが多い一方で、知財の創出や活用という一連のスキームを組む必要があることも多く、マネジメントもより高度なものになりがちです。本セッションでは、過去の国プロを通じた成功事例を通じて、研究活動の内容がどのような形で成果に結びつき、持続的・自立的なプラットフォームに繋がったのか、そのための仕組みや工夫などを、産学連携、地域連携などの視点から掘り下げます。また、それを受けて、現在進行中の国プロにおける発明発掘から知財の創出・活用に至るプロセスやその後のプラットフォーム構築の試みに関するご紹介と、一般的に国プロが抱えがちな課題及びその解決案について情報共有を図ります。続いて、特に、数年という短い期間ではなく、10年、20年といった長期の取り組みが求められる中、効果的なポートフォリオの構築にあたって、それを中心となって支える現場の実務家・プロフェッショナル人材の確保と育成についても、そのあるべき方向性について論じます。

セッション後半ではぜひ活発な議論を展開したく、積極的にご聴講の皆様にもご意見・ご質問を頂戴できればと考えております。

セッション担当者



稲穂 健市: 東北大学 研究推進・支援機構
上席URA(特任准教授)

弁理士、米国公認会計士(デラウェア州Certificate)。大手電気機器メーカーの知的財産部門、米国研究開発拠点などを経て、2014年より現職。米国時代はプロジェクト管理や契約業務を担当。現在はセンター・オブ・イノベーション(COI)東北拠点の戦略統括として、BUB連携体制の構築、ベンチャー創出支援、学内外のステークホルダーとの調整などを行う。知財啓発関連の著作多数。最新作は『ロボジョ! 杉本麻衣の Patent・ウォーズ』(楽工社)。

登壇者

永富 太一：香川大学 産学連携・知的財産センター センター長(准教授)



国内でまだ認知度がなかった2008年当時からリサーチアドミニストレーターとして産学連携の業務に携わり、現在までの間に学内のプロジェクト創出や国プロにおける産学官連携事業のマネジメントの中心的役割を担当し、学内外との信頼関係を構築する中で組織を任される立場に至る。現在は大型プロジェクトの知財戦略担当、技術移転機関の取締役、産学連携学会理事、香川大学起業部顧問等も務めるなど、領域を限定せずに活躍している。

奥田 飛功：一般社団法人 発明推進協会 知的財産プロデューサーグループ 知的財産プロデューサー

ソニーや日産自動車で知財管理やブランドマネジメントに約30年携わった。2014年から特許庁の委託事業でINPIT(工業所有権情報・研修館)から国プロ(JST,AMED、NEDOが主な研究開発資金提供元)に派遣され、知的財産プロデューサーとして、AMEDのバイオ医薬品、遺伝子・細胞治療技術開発や文科省のデータ利活用PJに対して支援中。